

流域および河川の概要

- 芝川・新芝川は、桶川市周辺の大宮台地を水源とし、台地の谷底低地から荒川低地へと流れ込み、芝川水門を経て荒川に合流する流域面積 96.79km²、流路延長 26.1km の一級河川である。
- 桶川市中部、上尾市東部、さいたま市東部、川口市西部、鳩ヶ谷市西部を流域に持っており、以前は、旧芝川と呼ばれる河道を流路として荒川に合流していた。しかし、度重なる洪水被害の軽減のために、下流域に放水路（新芝川）を開削した。
- 芝川・新芝川の特徴は、中流域に見沼田園が広がっていることである。見沼田園は東京から 20~30km 圏に位置し、水田・畑を主とする緑地があり、周辺の斜面林や河川等の水辺とともに一体となった田園景観を有し、首都圏における緑地群の拠点となるべき地域である。下流域においては、ほぼ全域が市街地で人口密度が高く、資産が集中しており、流域の約 9 割が市街化区域に指定されている。下流部は東京湾の潮位の影響を受ける感潮河川となっている。

河川整備の概要

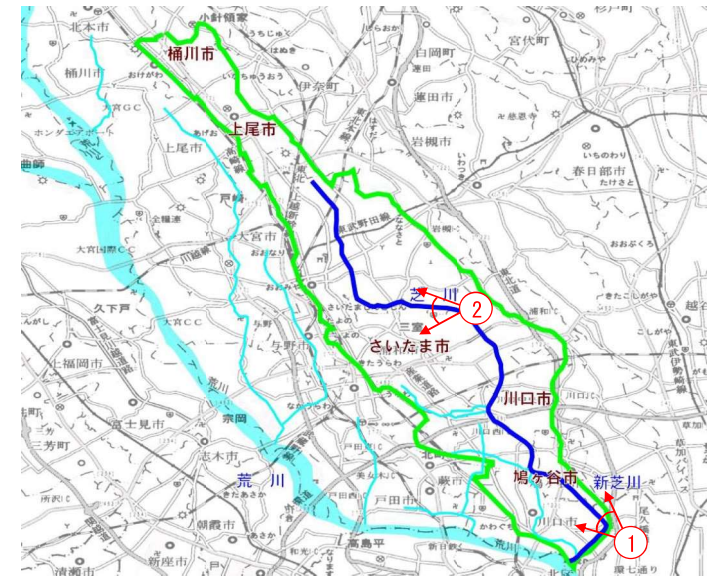
- 芝川・新芝川は八丁橋（11.70km）から下流の区間については、洪水による被害の防止や軽減の目標を達成している。よって、河川工事は、八丁橋（11.70km）から見沼代用水伏越（26.10km）までの合計 14.40km において、築堤、河道拡幅、河床掘削、合流点処理を行い、流下能力の向上を図る。
- また、13.20km 地点の左右岸に調節池を整備し、洪水流量の低減を図るとともに、自然を活かした川の整備、親水性の確保、優れた自然環境の保全を図る。
- また、地域協議会により策定された第二期水環境改善緊急行動計画にもとづき、水質改善や流量確保に資する河川の浄化や環境整備を行う。

整備にあたっての配慮事項

- 芝川の改修は、「見沼田園の保全・活用・創造の基本方針」にもとづき工事を実施する。
- 水域に多様な流れを創り出し、水際域には多種多様な生物が生育生息できる環境を確保する。
- 第 1 調節池周辺は、都市近郊の大規模緑地空間である見沼田園があるため、調節池整備にあたっては、見沼田園の自然環境の保全、創造、回復に役立つような空間づくりを目指す。そして、環境復元、環境創造、空間活用を目的とした各ゾーンを整備し、生物の生息環境を創造し、また、人々がレクリエーションを楽しめる場となるようにする。
- 管理用通路などについては、関係機関や地域住民と連携、協力して有効活用を図る。



流域図



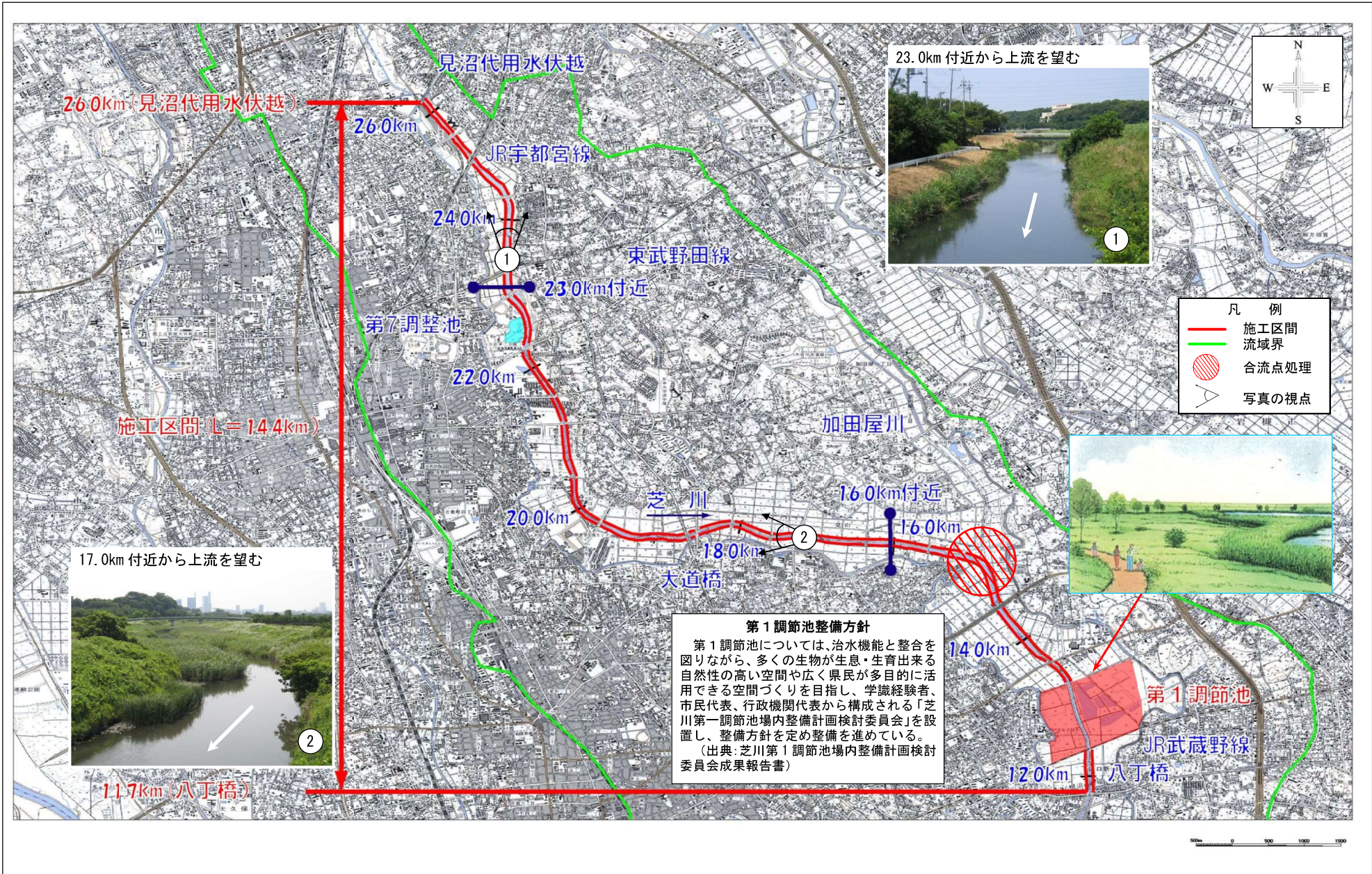
河川沿いの状況

芝川 2.5km 付近

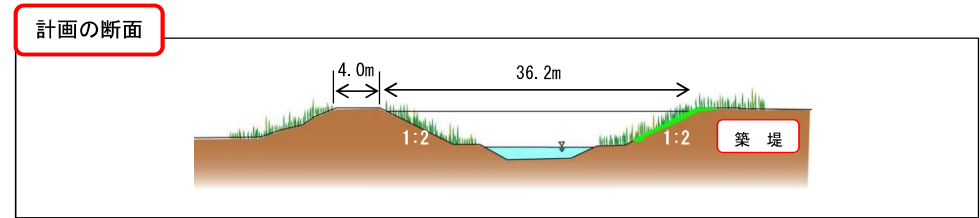
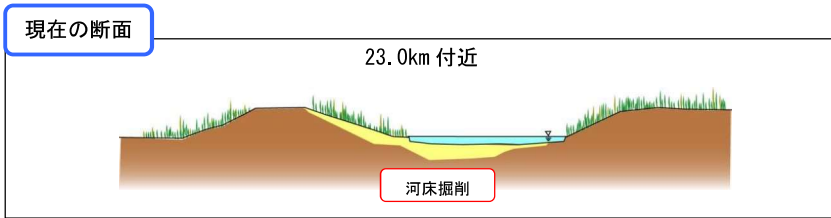
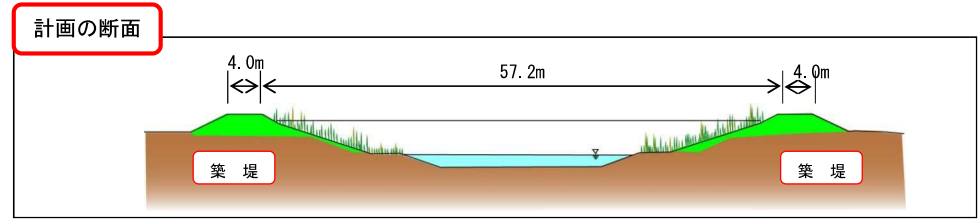
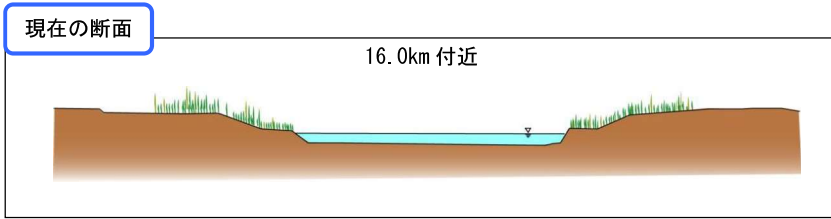


芝川 16.5km 付近

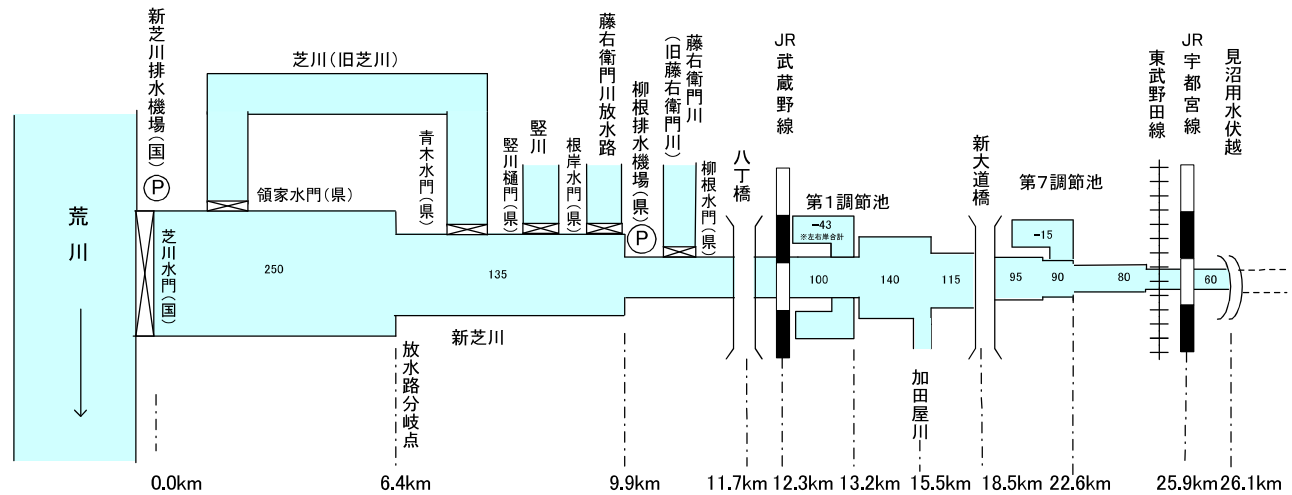




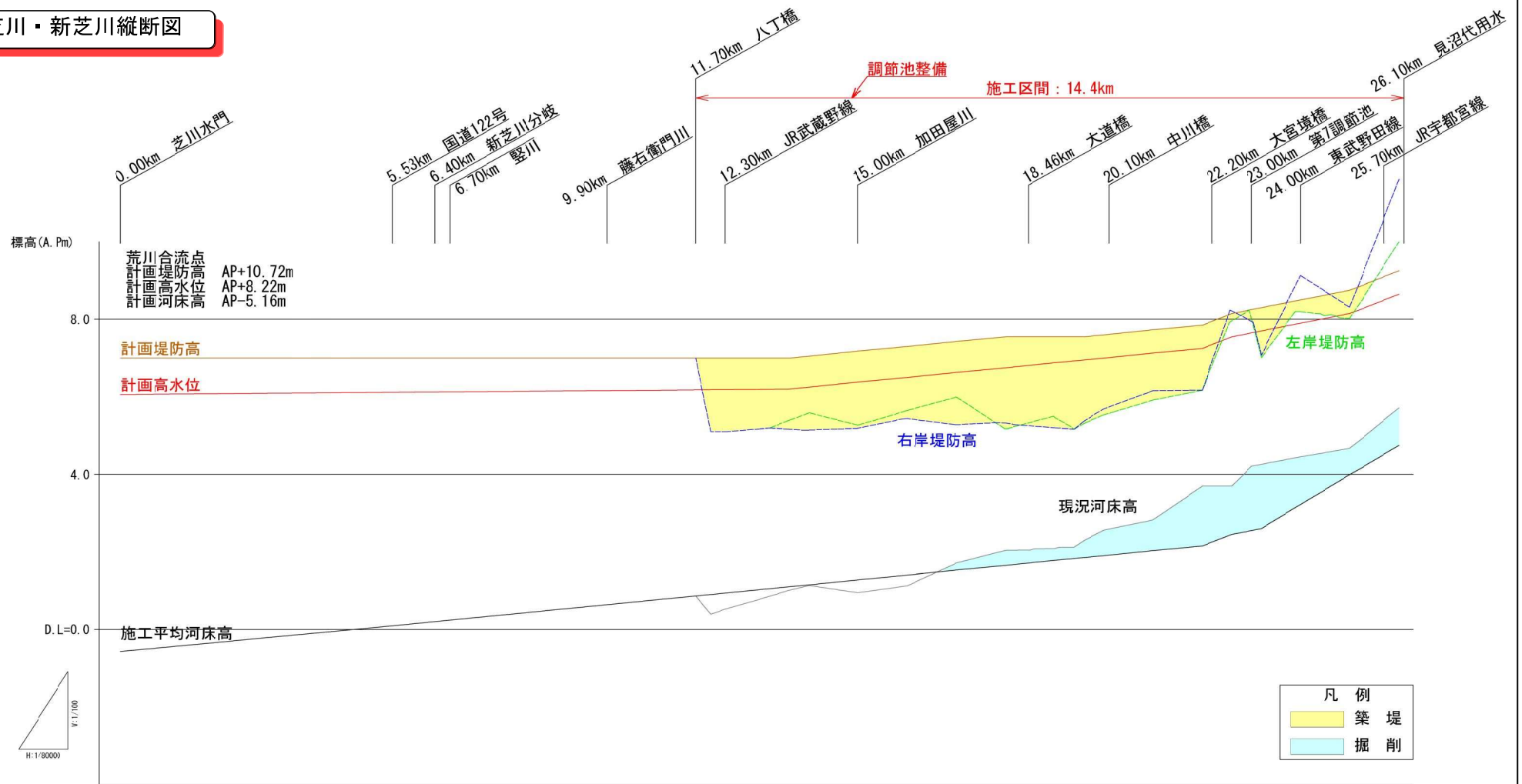
芝川整備平面図 S = 1 / 50,000



流量配分図



芝川・新芝川縦断図



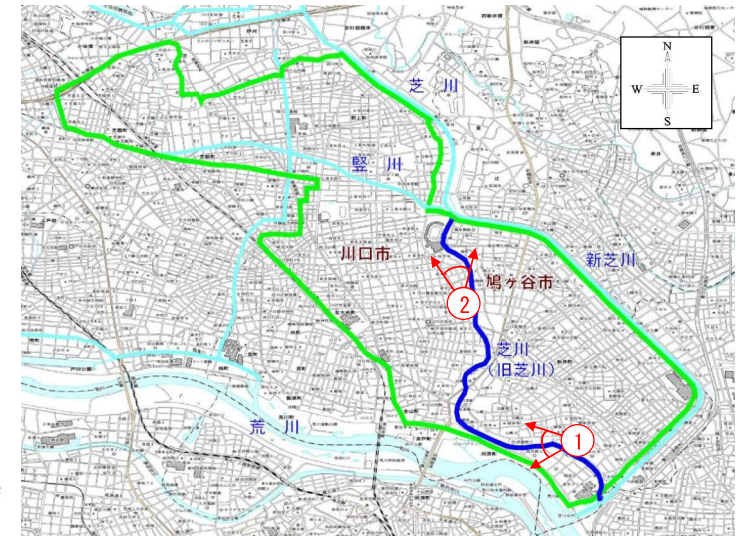
測点	計画		
	計画堤防高	計画高水位	施工平均河床高
0.0K		6.06	
1.0K	7.00	6.07	
2.0K	7.00	6.08	
3.0K	7.00	6.09	
4.0K	7.00	6.10	
5.0K	7.00	6.11	0.03
6.0K	7.00	6.12	0.15
7.0K	7.00	6.13	0.28
8.0K	7.00	6.14	0.40
9.0K	7.00	6.15	0.53
10.0K	7.00	6.16	0.65
11.0K	7.00	6.17	0.78
12.0K	7.00	6.18	0.90
13.0K	7.00	6.19	1.03
13.6K	7.00	6.20	1.15
14.0K	7.05	6.25	1.15
15.0K	7.18	6.38	1.28
16.0K	7.30	6.50	1.40
17.0K	7.43	6.63	1.53
18.0K	7.55	6.75	1.65
19.0K	7.55	6.88	1.78
19.6K	7.55	7.00	1.90
20.0K	7.60	7.13	2.03
21.0K	7.73	7.25	2.15
22.0K	7.85	7.55	2.45
22.6K	8.15	7.65	2.58
23.0K	8.25	7.80	2.80
24.0K	8.50	7.90	3.22
25.0K	8.75	8.15	3.98
26.0K	9.25	8.65	4.75

流域および河川の概要

- 芝川 (旧芝川) は芝川下流部に位置し、川口市や鳩ヶ谷市周辺の荒川低地に発達した市街地を水源、流域としている、流域面積 18.45km²、流路延長 5.50km の一級河川である。
- 最上流部は青木水門、最下流部は領家水門によって常時閉鎖されており、そのため普段は竪川排水路樋門脇よりフロードゲートにより新芝川の水を浄化導水として流し込み、元郷排水機場から荒川にポンプ排水される。洪水時には竪川の水が流れ込み、芝川、元郷の両排水機場から荒川にポンプ排水される。芝川 (旧芝川) は以前、芝川の下流部であったが、度重なる洪水被害の軽減のため、放水路 (新芝川) が削削されて、中上流部の水はすべて新芝川に流すようになった。
- 芝川 (旧芝川) の特徴は、流域内のほぼ全域が川口市の市街地で、人口密度が高く、資産の集中している地域であることである。また、流域の全域が市街化区域に指定されている。



流域図



河川整備の概要

- 河川工事は門樋橋 (2.18km) から青木水門 (5.50km) までの合計 3.32km において、河床掘削、護岸整備、管理用通路などの整備を行い、親水性の向上を図る。
- また、地域協議会により策定された第二期水環境改善緊急行動計画にもとづき、水質改善や流量確保に資する河川の浄化や環境整備を行う。

河川沿いの状況

芝川 (旧芝川) 1.5km 付近

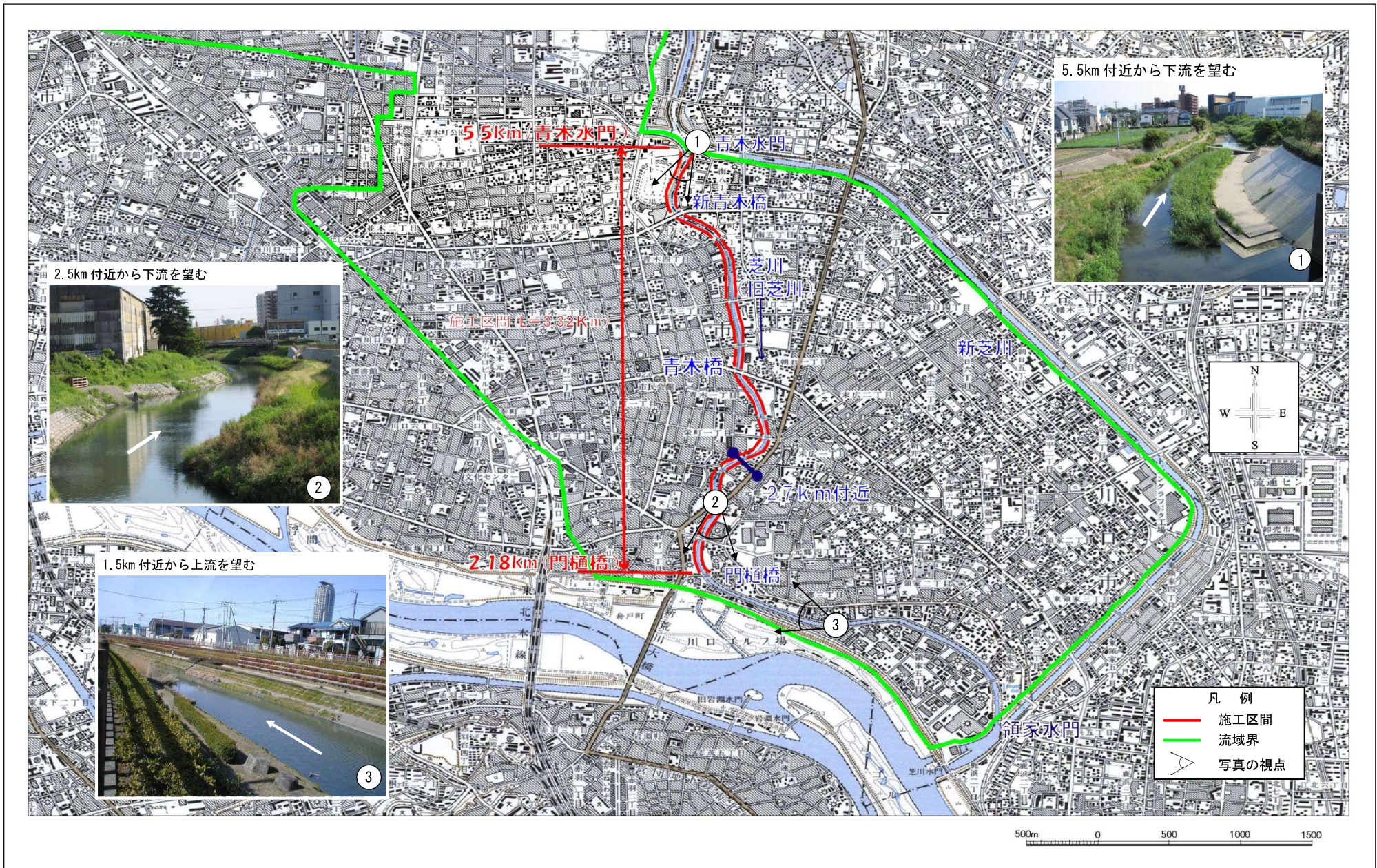


芝川 (旧芝川) 4.0km 付近



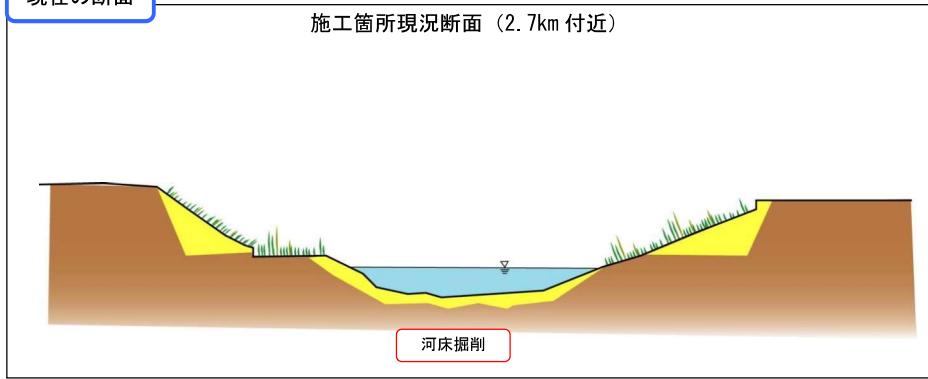
整備にあたっての配慮事項

- 芝川 (旧芝川) は都市を流れる河川であるため、地域住民との関わりが強く、河川環境を重視し、住民の憩いの場となるような親しみの持てる川を創出する。
- 周辺の景観を生かした護岸等の植生と、都市部の貴重な河川空間として、管理用通路を有効利用する。

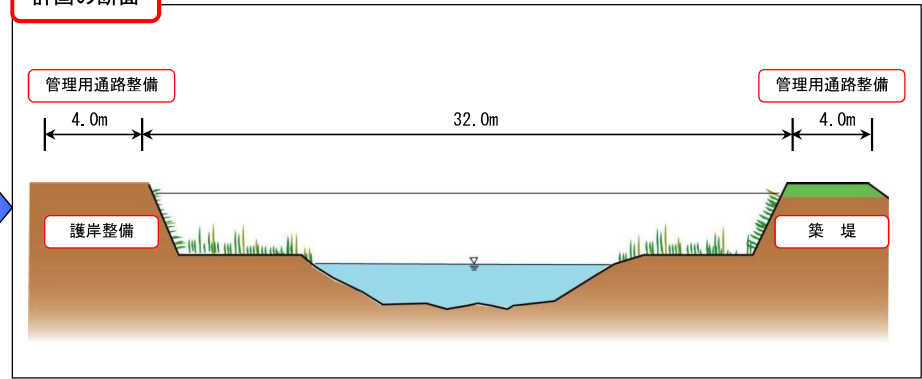


芝川（旧芝川）整備平面図 S = 1 / 25,000

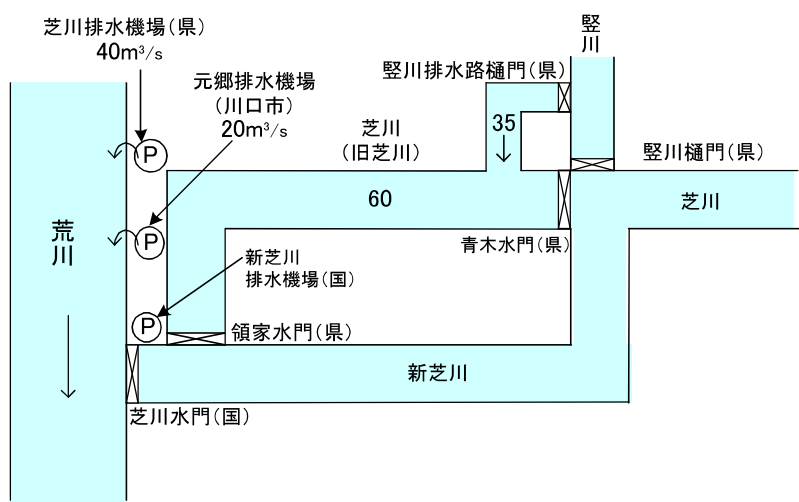
現在の断面



計画の断面



流量配分図



流域および河川の概要

- 藤右衛門川・藤右衛門川放水路は、さいたま市周辺の大宮台地に発達した市街地を水源とし、台地の谷底低地から荒川低地に流れ込み、根岸水門から芝川に合流する、流域面積 9.30km²（旧藤右衛門川流域 8.76km²を除く）、流路延長 4.30km の一級河川である。
- さいたま市中部を流域に持ち、藤右衛門川は以前、藤右衛門川（旧藤右衛門川）から芝川に合流していた。しかし度重なる浸水被害軽減のため、下流部に放水路（藤右衛門川放水路）が開削され、上流部の水はすべて放水路に流れるようになった。
- 藤右衛門川・藤右衛門川放水路の特徴は、昭和 35 年頃から台地部の都市化が進展し、やがて沿川の低地部にも住宅が建ち並び、人口密度が高い地区となったことであり、流域の全域が市街化区域に指定されている。



流域図



河川整備の概要

- 藤右衛門川・藤右衛門川放水路は、河道については浸水被害の防止、軽減のための目標を達成している。よって、河川工事は、上谷沼調節池（2.4km 左右岸）の整備を行い、洪水流量の低減を図るとともに、親水性を確保する。
- また、地域協議会により策定された第二期水環境改善緊急行動計画にもとづき、水質改善や流量確保に資する河川の浄化や環境整備を行う。

河川沿いの状況

3.5km 付近

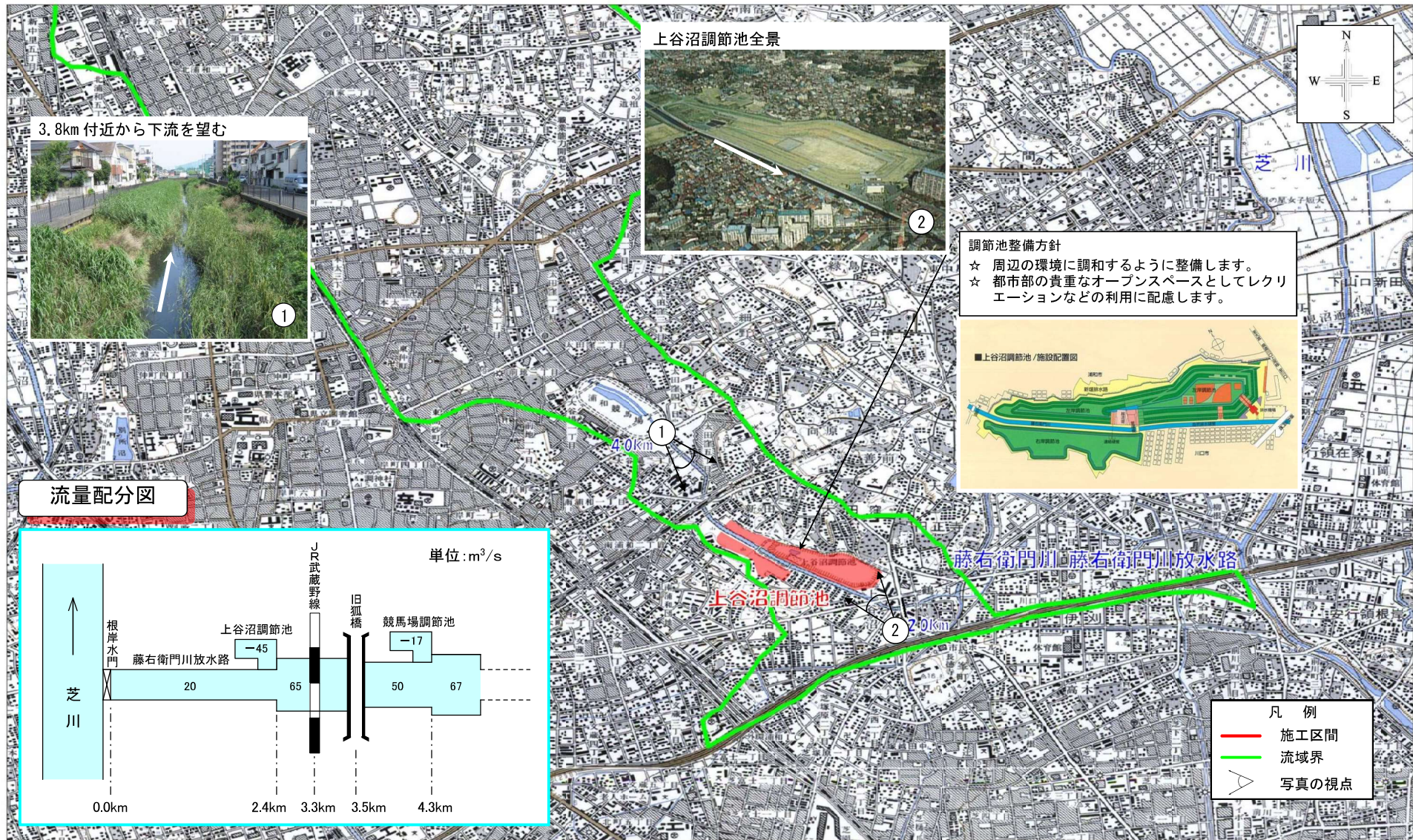


上谷沼調節池



整備にあたっての配慮事項

- 河川工事にあたっては、調節池周辺の環境に調和した整備を行う。都市部の貴重なオープンスペースとして、レクリエーション利用等に配慮して整備する。



3.8km 付近から下流を望む



1

上谷沼調節池全景

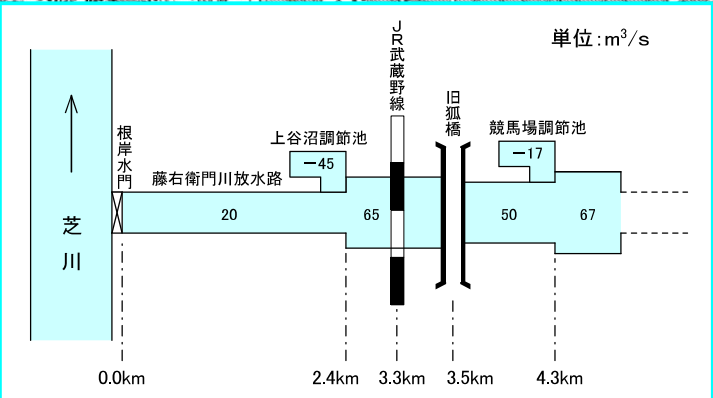


2

調節池整備方針
 ☆ 周辺の環境に調和するように整備します。
 ☆ 都市部の貴重なオープンスペースとしてレクリエーションなどの利用に配慮します。



流量配分図



- 凡例
- 施工区間
 - 流域界
 - 写真の視点

藤右衛門川・藤右衛門川放水路整備平面図 S = 1 / 25,000